

# I-PEXキャンパス本館

I-PEX Campus Main building

No. 05-070-2021作成

改修・保存  
事務所

発注者	I-PEX 株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO2技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	KAJIMA DESIGN		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携			
施工	鹿島建設		I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他			

## 歴史ある大学建築を最先端オフィスにコンバージョン

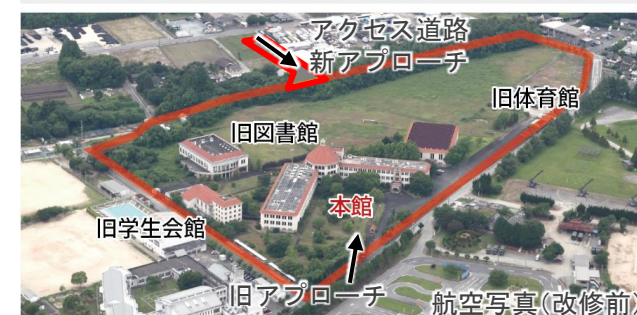
超精密金型を軸として、コネクタ、自動車部品、精密部品、生産設備を製造するグローバル企業の移転プロジェクト。大学として使用されていた約65,000㎡の敷地を順次整備し、グループの中核拠点へと作り変えるプロジェクトであり、本館は旧大学校舎を設計・開発部門が入居するオフィスへとコンバージョンを行った。大学からオフィスへのコンバージョンに伴い、建物診断と改修、設備機器の更新、現行法規への遵法化を実施。その他、現代のオフィスに求められる省エネ性能や利便性にも配慮して計画を行った。顧客からは「歴史ある教育施設の传承」、「ABWに対応した最先端オフィスへの改修」が求められた。外観は旧大学校舎（設計：一粒社ヴォーリズ建築事務所）のデザインを継承、内部はリニューアルを施しつつも、インテリアの一部を保全する方針とした。歴史ある教育施設は、その記憶を次世代へと伝承しつつ、現代の働き方に即した最先端ワークプレイスへと生まれ変わった。



I-PEXキャンパス 全景

調整池(道路下):約1900t

- 計画方針
- ① 学校建築の外観、内部空間をできるだけ保全
  - ② 既存教室を活用した教育スペースを計画
  - ③ 活発なコミュニケーションを誘発する環境の創出
  - ④ I-PEXスピリットをアピールする展示空間を計画
  - ⑤ 地域に愛される“ファクトリーヴィレッジ”の創出



アクセス道路  
新アプローチ

旧図書館  
旧学生会館  
本館  
旧アプローチ

航空写真(改修前)



改修予定

I-PEXキャンパス入口  
(新アプローチ)

調整池(道路下):約1900t

旧図書館 (約400台)

旧学生会館 (食堂)

本館

旧体育館

ものづくり棟

II期工事(予定)

2021年12月竣工

市道若山・三沢線

0 100 200 配置図

### 建物データ

所在地	福岡県小郡市
竣工年	2020年
敷地面積	65,300㎡
延床面積	8,314㎡ (本館のみ)
構造	RC造
階数	地下1階、地上3階

### 活発なコミュニケーションを誘発する環境の創出に向けて

顧客要望を実現するべく、ABWをベースとする「新しい働き方」に対応した空間へとリニューアル。新旧のデザインが混ざり合う多様な空間構成によって働く人の感性を刺激し、ひらめきや対話が生まれるオフィスを志向した。

### 業務に応じて働く場所を選べるワークスペース

旧大学校舎の廊下と教室を分けていた間仕切壁をすべて撤去、大部屋の明るく開放的なワークスペースへと生まれ変わった。元廊下として利用されていたエリアは、動線としての機能を残しつつも、部署を超えた偶発的な打合せにも対応可能な「コミュニケーションハブ」としての機能を持たせた。



### 旧本館の吹抜を利用し上下階を有機的に接続

#### 生まれ変わったエントランスホール

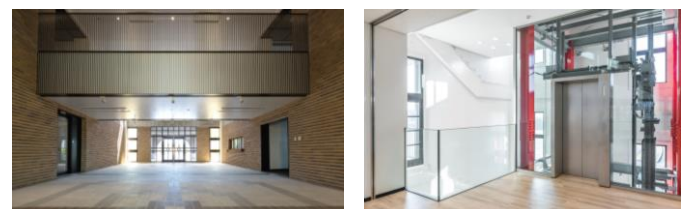
ヴォーリズ建築の特徴である、アラベスク模様を配した吹抜に螺旋階段を設置。上下階を一体利用可能な空間とした。



新設階段

### 「減築」によって新たに明るく開放的な空間を創出

サブエントランスは既存スラブを撤去、新たに吹抜けを設けた（展示空間を予定）。シースルーEVは平面計画と避難距離上、問題のない階段を撤去することで、設置が可能となった。



サブエントランス

バリアフリー対応の大型EV

設計担当者

統括：村田健一／建築：加茂川豊記／構造：井手文雄、根本秀雄／設備：浜本斉、竹之内章、中村佐和子／インテリア/KAJIMA DESIGN、studio CIRCLE／外構：ランドスケープデザイン／照明デザイン：KAJIMA DESIGN、studio CIRCLE

### 主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3.2. まちなみ・景観への配慮 (既存建物の外観保存)
- LR1.1. 建物外皮の熱負荷抑制 (外壁断熱、ペアガラス)
- LR1.3. 設備システムの高効率化 (LED照明、センサー制御、全熱交換器)
- LR2.1. 水資源保護 (節水型便器)
- LR2.2. 非再生性資源の使用量削減 (既存躯体の継続利用)

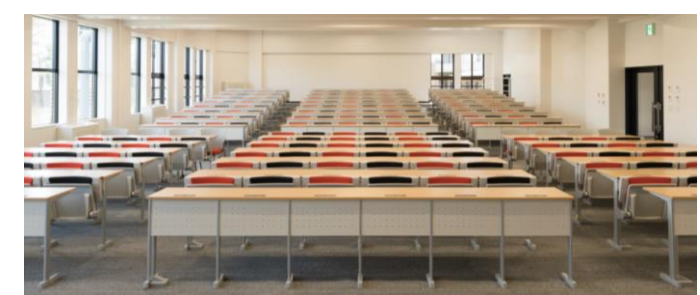
### 多様な利用方法を想定したホール

通常時は社員のワークスペースとして、ある時は、企業の新しい姿を発信するプレスリリースの場としての利用を想定。空調機は特徴的な天井のイメージを尊重し、床置型を採用。暖房は窓面からの外皮負荷や居住域での快適性向上に配慮してステージからの床吹き出し方式を採用した。



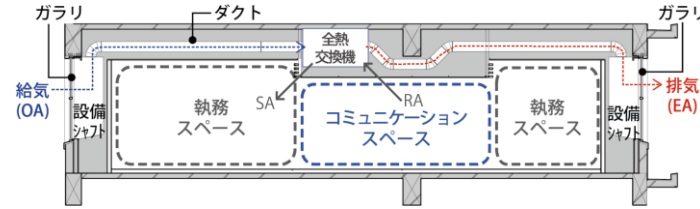
### 旧大学校舎の講義室・教室を社内教育に活用

今後の社業の発展に欠かせない人材教育、技能継承を強く推進する中心拠点として利用するため、講義室や教室は「学び舎」としての機能を残し、社内教育に利用されている。



### 大学からオフィスへのコンバージョン

建築基準法対応として、機械換気設備、排煙設備を導入。その他、現代のオフィスに求められる省エネ性能 (外壁断熱、ペアガラス採用) や利便性 (OAフロアの設置) にも配慮した。



オフィス断面図：給排気ダクトとガラリ新設 (カバー工法)